

なか

No.133

発行日 平成28年2月12日
発行 那珂市
編集 秘書広聴課広報グループ
〒311-0192
茨城県那珂市福田1819-5
E-mail hisho-k@city.naka.lg.jp
URL http://www.city.naka.lg.jp

祝
那
珂
市
成
人
式

平成28年
那珂市成人式



新成人の皆さん
おめでとうございます

目次 Contents

水鳥㊟	〓 2
平成27年第4回那珂市議会定例会	〓 6
平成28年那珂市成人式	〓 9
あなたの地区の民生委員・児童委員	〓 10
スポーツ推進委員だより	〓 12
那珂市の財政事情	〓 16
那珂市水道事業会計	〓 18
わがまちの環境を考える	〓 20
那珂市内放射線量測定状況	〓 24
まちの話題	〓 26
Information	〓 28
さわやかさん ほか	〓 32



水鳥

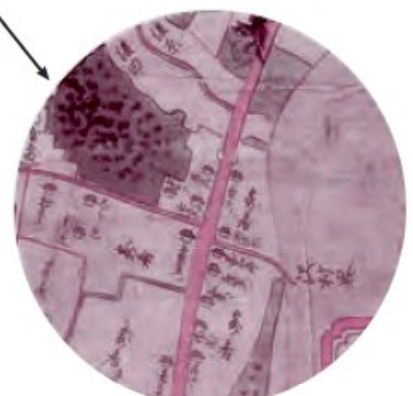
22

「菅谷村全図」を楽しむ（後編）

広報なか平成27年6月号で紹介した『菅谷村絵図』から、今回は街道を中心に当時の菅谷村の様子を読み解いていきましょう。

1 棚倉街道下町通り

村の中を棚倉街道が南北に2本走っています。はじめに水戸城下市から枝川の渡しを越えて田彦に入る通称「下町通り」を見てみます。寄居十文字を中心に①宿が形成されています。直線的な路村と異なり、塊的な集落であることは中世（江戸時代前）の集落形成の特徴です。



左図拡大

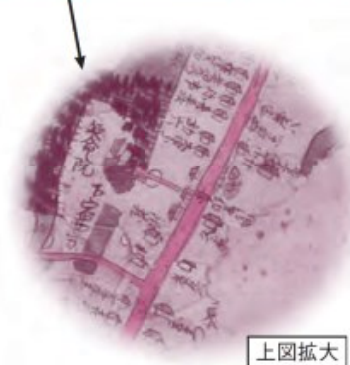
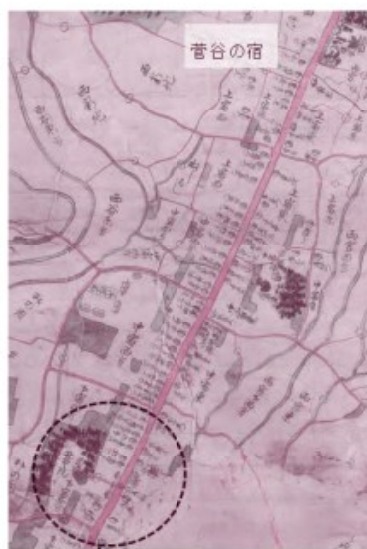


菅谷村絵図 巨嬰幽画 年不明 手書・手彩 100.24×59.5cm
那珂市歴史民俗資料館蔵



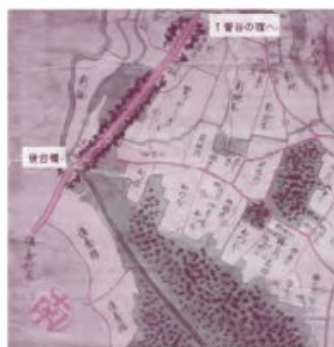
その西方に「平野館跡」の森が見えます。屋敷は②「内屋敷」と記されています。現在、館跡は「土手中」とも呼ばれているようです。江戸氏の重臣平野豊前重資館で、重資には水戸城主江戸但馬守の娘「おちへ」が嫁いでいます。深い堀・高い土塁が幾重にも廻っている規模は、那珂市域では最大の館跡です。道路もカギ型になっていることは敵から守るための工夫です。大きな寄居屋敷森の北西隅、字「木の宮」に見える社が③「石尊宮」でしょうか。なお、「木の宮」と「石尊宮」の関係ははっきりしていません。街道を堤村方面へ北上しますと、西方の後原への分かれ道がありそこに大きな一本の④「追分の松」が描かれています。その先の向原から高内にかけては松並木やヒノキの並木が続いています。現在でもその中のヒノキ数本が往時のおもかけを残しています。当時を描いた別地図には、堤橋近くの両側に「一里塚」があったことが示されています。残念ながら今は跡形もありません。この前は田彦に一里塚がありました。

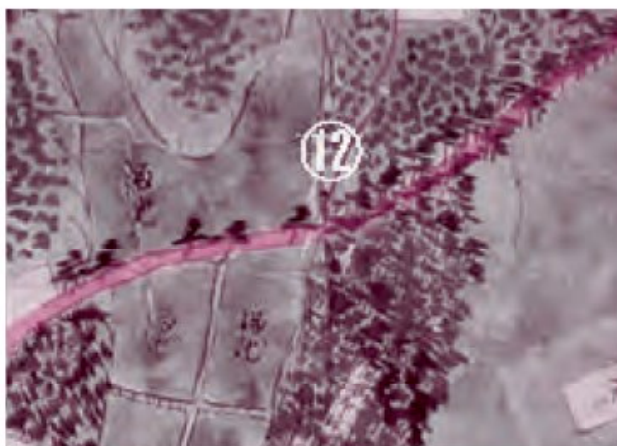
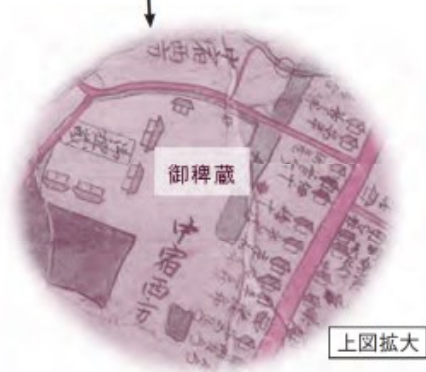
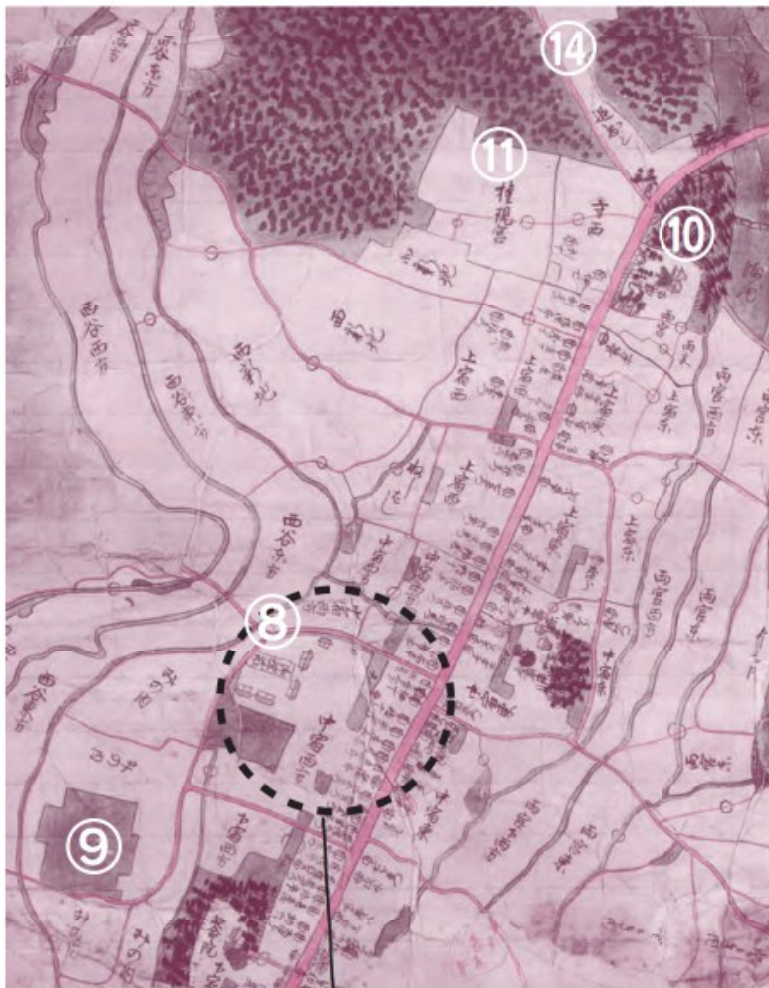
●延命院
中宿西に寺院の森（寺山）に囲まれた⑤「延命院」（真言宗）があります。かつては下宿の堀の内（国道34号西側）にあり、元禄年間にこの地に移されました。元禄12年（1699）6月10日に西山荘に隠居していた徳川光圀が宿泊したことが、常陸太田市久昌寺の僧日乗上人の「日記」に記されています。水戸藩9代藩主徳川斉昭の天保の社寺改革で廃寺となりました。中宿東に修験の住む⑥「明楽院」が記され、その北に大きな森を控えた⑦「常運寺」（浄土宗）が見えます（総合保健福祉センター「ひだまり」の東）が、斉昭の社寺改革により廃寺となっています。



上図拡大

2 棚倉街道上町通り
後台橋から下宿東にかけて松やヒノキ並木が続きます。橋のたもとに「一里塚」があったと別な地図にはありますが、その形跡はこの絵図からは読み取れません。並木先の下宿から上宿にかけては住宅が密集するみことな街村（街道に沿った集落で江戸時代のは路村とも云われます）を形成しています。「小宅三左衛門」「横須賀勘兵衛」など一戸ごとに名が入られた絵図で、皆さん大いに関心を持てると思います。





●御稗蔵

中宿西方に⑧「御稗蔵」が見えます。「みの内」の字名が見え、かつて⑨柏村越前守の館がありました。水戸徳川家の前に水戸城主となった徳川家康の五男武田信吉の御殿が置かれたましたが、着任する前に信吉が死去し、その後代官となって支配した伊奈備前の陣屋（御殿）が置かれ、鈴木金太夫が住んでいました。その後徳川光圀によって備荒貯蓄のための「稗倉」が置かれたものです。

上宿の両宮池のたもとに⑩「不動院」（真言宗）が見えます。15世紀に武田郷（ひたちなか市）から移転して鹿島社・八幡社両宮の神宮寺として建立されました。道路を挟んで寺の西側に字⑪「権現宮」があります。何の権現であったかは定かではありませんが、「権現」の存在が認められます。

●並木街道

この先、街道は杉村・額田村へ向けて北上して両宮池を東西に分けるように縦貫します。大きな池の両側にも松かヒノキの大きな木が並ぶ見事な⑫並木街道が続いていたことが分かります。

この棚倉街道上町通りを城下から見ますと、青柳から中台村に上がってほぼ直線の並木道が後台橋まで続き、さらに菅谷村下宿から上宿まで直線的な街路が続いています。菅谷から額田坂下までもほぼ直線的な道です。時期は未だ定かではありませんが、額田坂下から青柳までを下町通りのバイパス的な道路として意図的に造られたものではないかと思われます。

なお、佐竹義重が太田から水戸城の江戸通重を攻めたときには、村松から勝倉へ入るルート、また一方で後台村・中台村で闘っていますから上町通りを進軍して来たと思われる。



3 脇街道

上町通りから下町通りを結ぶ中間の街道はどこでしょうか。この地図は惜しいことに中央部が破損してはつきりはしませんが、長州藩から来た吉田松陰は「青柳・中台を経て菅谷に入り右折して小路を行くこと一里（約4km）ばかり、大道（陸前浜街道）に出て石神の大橋を経て森山に宿す」と日記に記しています。このコースをたとえば「松陰通り」と名付けるとすれば

そのルートを見出したいものです。地図に示された道の太さと順当に北へ向かうことから考えると次のルートかと推定してみました。

⑬「中宿東から通称「湊街道」を進み、仲の房の正覚寺前を通って高内溜池脇を過ぎ、高内東の棚倉街道下町通りの並木に出て北上、堤十字路を右折して陸前浜街道（沢村・佐和上宿）に出た。」

なお、不動院から字「追出し」「寺西」を通り村の西北の大きな森を抜けて鴻巣村へ延びる道が見えます。これは駒形神社前へ通じる俗に⑭「八幡街道」（右ページ上図参照）と呼ばれる道で、八幡太郎義家が奥州遠征の途中鹿島社を拝し北へ向かった街道と思われます。

また、街道の東に鷺内の大きな森があり、この中に鷺内館跡があり加藤安房守の屋敷とされています。堀と土塁は二重に形成され、その全体像が把握できる程に良く保存されている貴重な遺跡です。森の東縁には溜池が一部残っています。

4 まとめ

菅谷村は、平坦な農村地帯でしたが、湊と瓜連・茂木方面を東西に結ぶ「塩街道」と水戸・太田・棚倉方面の南北を結ぶ「棚倉街道」の交差点でもあったこと、また水戸城下の繁栄および水戸徳川家の瑞龍山墓地や光圀の隠居所西山荘を持つ太田との交通が盛んになったことに伴い、荷物の中継場として徐々に集落・宿を形成していったものと思われます。

道路沿いに形成される路村は新田開発に伴い形成される集落形態であるといわれますが、菅谷村がどのようにしてこのようななごとな路村・宿となったのか、何を中心として宿並となっていたのか、その出来方については「陣屋」に注目してみます。ここから伊奈備前は検地を司令し、開発水田の地割を街道に沿って整え、周辺の農民を意図的に集住させて出来た水田開発集落と思われます。水戸城下と太田・棚倉方面の往来が盛んになると、荷物の中継場ともなつて「宿」が形成されていったと考えられます。

※皆さまのお持ちの土地が館跡であったり、地下に埋蔵文化財（遺跡）が存在する場合があります。開発には事前に教育委員会生涯学習課（歴史民俗資料館）への届け出が必要となります。

那珂市埋蔵文化財包蔵地（遺跡）分布地図

● 1部100円 歴史民俗資料館にて販売中

※この地図は簡易的なもので、開発などに伴う包蔵地確認は必ず歴史民俗資料館にお問い合わせください

問い合わせ

歴史民俗資料館
☎297・0080